

**松本歯科大学衛生学院
2017年度自己点検・評価**

1. 教育目標

温かく豊かな人間性と幅広い教養を備え、口腔保健の専門的知識と技術を持って広く人々の健康と幸福に貢献するとともに、地域や国際社会の保健・医療・福祉・健康の課題に柔軟に対応できる感性豊かで創造力をもった総合的な口腔保健の専門医療人を養成することを目指すものである。

2. 自己点検・評価 I

〔評価法〕・3点:問題はない、現状を維持する。 ・2点:問題があるので、徐々に改善する。 ・1点:大いに問題がある、早急に改善する。

	評価事項	評価	課題等	改善方策
1. 教育課程の状況	(1)教育目標に基づき、カリキュラムを編成している。	3.0		
	(2)カリキュラム編成の方針を教職員が共通に理解している。	3.0		
	(3)授業、休暇、行事など年度計画は適切である。	3.0		
	(4)開設科目及び各科目の時間配分は適切である。	3.0		
	① 基礎分野の科目について	3.0		
	② 専門分野の科目について	3.0		
	③ 選択必修分野の科目について	3.0		
	(5)シラバスを作成し、シラバスに即した授業を行っている。	3.0		
(6)シラバスは、必要な内容を網羅し学生に有効に活用されている。	3.0			
2. 教育・指導等の状況	(1)視聴覚教材や補助教材の活用など教授方法を工夫している。	3.0		
	(2)課題授業の導入など、学生の自主的、自発的学習能力の向上を図っている。	3.0		
	(3)個別指導、習熟度別指導など学生個々の学力、特性に応じた教育を行っている。	3.0		
	(4)複数の教員が担当する科目について、教育目標の一貫性、統一性を確保している。	3.0		
	(5)教授内容、教授方法の検証を定期的に行っている。	3.0		
	(6)日常的に学生の学習姿勢、理解度を確認し指導している。	3.0		
	(7)成績は、適切な基準と方法により評価している。	3.0		
3. 臨床実習の状況	(1)学生の態度教育あるいはコミュニケーション能力を高めるための教育を行っている。	3.0		
	(2)インシデントへの対応、防止のための教育を行っている。	3.0		
	(3)実習目的に沿った実習施設を選択している。	3.0		
	(4)実習先の実習環境、指導体制は適切である。	2.5	個別対応が必要な学生の増加に伴う指導体制の見直しが必要 学生の負担が過度にならないような工夫が必要	実習環境の改善を図るため、2017年度に病院実習担当の歯科衛生士と協議し、2018年度の指導体制の見直しを行っている
	(5)実習施設との連携を密にし、実習の成果を高めている。	3.0		
4. 就職支援の状況	(1)適切な進路情報の提供、進路指導を行っている。	3.0		
	(2)歯科医師会、校友会、職安など関係諸団体、関係機関と十分な連携をとっている。	3.0		
	(3)求人開拓、求人確保は十分行われている。	3.0		
	(4)就職後の卒業生の状況の把握、就職後のケアができています。	2.3	卒業アンケートの実施 アンケートによる動向調査	卒業生の把握や就職後のケアをするために卒業アンケートが有効に利用できるか、アンケートの対象者や取得情報の活用方法等を検証する
5. 学生生活・保健管理の状況	(1)学生の問題行動に対する指導体制が整えられている。	3.0		
	(2)心身の問題など、学生生活全般に対する相談・支援体制が整えられている。	3.0		
	(3)健康診断、疾病予防など適切に学生の健康管理を行っている。	3.0		
	(4)事故、災害、感染症など、緊急事態に対する対応について教職員が理解している。	3.0		
	(5)学生が健康で安全に学生生活を送るため、学校環境のチェック、整備を行っている。	3.0		
	(6)保護者への報告、相談など保護者との連携を密にしている。	2.8	全学生に対する三者面談の実施	保護者との連携を強化するため、全学生を対象にした三者面談の実施について検討するとともに、成績不振者については、これまでと同様、個別に三者面談を実施する
6. 管理・運営の状況	(1)必要な表簿等が適切に整理、保管されている。	3.0		
	(2)学院長以下、教職員の職務分掌、責任体制が明確になっている。	3.0		
	(3)教育職員と事務職員との情報の共有、協力ができている。	3.0		
	(4)学内研修の実施、学外研修への参加など教職員の資質向上のための取り組みがなされている。	3.0		
	(5)職員会は、有効に機能している。	3.0		
	(6)教員会は、有効に機能している。	3.0		

7. 教育環境の状況	(1)教室、実習室等、教育施設は適切に整備されている。	3.0		
	(2)教室、実習室の広さ、明るさなど学習環境は、良好である。	2.8	暑さ、寒さに対する空調の調整がしにくい	空調設備については、学校独自の予算では対応ができないため、理事会と調整を図る
	(3)実習設備、機器は適切に整備、管理されている。	2.5	整備しているが、老朽化したユニットは交換が必要 老朽化のため使用が困難なユニットの交換	実習施設については、学校独自の予算では対応ができないため、理事会と調整を図る
	(4)教材、視聴覚機器等の教育機器は、適切に整備されている。	2.5	プロジェクター用パソコンのOSが古いため購入が必要 使用頻度の高い機器の教室設置	パソコンやプロジェクターの購入経費については、2019年度以降の予算に組み入れ、計画的に整備する
	(5)学生の個別指導、個別相談のための環境は、適切である。	2.8	面談室の設置	施設の改修については、学校独自の予算では対応ができないため、理事会と調整を図る
	(6)その他の施設が、適切に整備されている。	3.0		

3. 自己点検・評価 II

〔評価法〕・3点：問題はない、現状を維持する。 ・2点：問題があるので、徐々に改善する。 ・1点：大いに問題がある、早急に改善する。

	評価事項	評価	課題等	改善方策
1. 入学状況	(1)入学定員(38人)に対して、入学者数は適切である。	2.4	定員の充足が課題である 志願者数増加の対策が必要	例年と同様、学校独自の高校訪問や体験入学の実施、 県内4校共催の歯科衛生士体験会の開催や共同PR等により、 志願者の獲得、入学定員充足を目指す
	(2)入学者の入学適性に、問題はない。	2.6	適性の見極め、面接・小論文などから可及的に 入学前教育の変更	大手進学塾による入学前教育講座を利用する
	(3)入学者の選抜方法は、適切である。	2.8	入試時期・方法の見直し 入試時期・方法の検討	AO入試について、2018年度入試では7月に実施したが、 高校関係者から実施時期が早いとの指摘があったため、 2019年度入試では9月に変更している
	(4)入学生確保の方策は、適切である。	2.8	学校訪問、体験入学やオープンキャンパスなどによるPR 志望対象としての社会的役割・魅力を周知	これまでと同様、学校訪問や体験入学等で歯科衛生士の 役割、魅力等を周知し、入学定員の確保を図る
2. 修学状況	(1)学生の進級状況に、問題はない。	2.8	勉学へのモチベーション 入学時の適正の見極め	勉学へのモチベーションとやる気を向上・維持するため、 1年次の授業科目「口腔生命科学入門Ⅰ」(担当:学院 長)において、歯科医療の意義、スタッフの役割等を講義 する
	(2)中途退学者について、問題はない。	2.6	心身両面での負担軽減をもたらす実習項目の策定 臨床実習の実施要領の見直し 臨床実習からの脱落者を削減 実習担当者と協議し方策を検討中	臨床実習中の学生の心身両面での負担軽減のため、臨 床実習担当の歯科衛生士と協議し、2018年度の指導要 領の見直しを行っている
	(3)学生の修学状況に、問題はない。	3.0		
3. 卒業・他状況	(1)卒業の状況に、問題はない。	3.0		
	(2)歯科衛生士資格の取得状況に問題はない。	3.0		
	(3)歯科衛生士資格以外の資格の取得状況に、問題はない。	3.0		
	(4)就職状況に、問題はない。	3.0		
4. 教職員	(1)常勤の教職員数は、適切である。	3.0		
	(2)非常勤の教職員数は、適切である。	3.0		